

iStorage NS500Rk ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠におそれ入りますが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 1) はじめに
- 2) システム ROM の機能に関する注意事項
- 3) iLO 6 の機能に関する注意事項
- 4) OS に関する注意事項
- 5) 全般の機能に関する注意事項

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」より、「3170102856」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<https://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル <<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>>

の最新の情報およびバージョンをご確認のうえ、ご利用ください。

● Starter Pack について

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。

Web サイトに掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-011.02 以上を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-011」を検索)

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

2) システム ROM の機能に関する注意事項

● Intel (R) Quick Assist Technology について

以下の CPU を搭載したシステムにおいて、特定のバージョンのシステム ROM を使用している場合、CPU2 側の Quick Assist Technology 機能は利用できません。

N8101-1851 CPU ボード (32C/2.80GHz/Platinum 8462Y+)

N8101-1842 CPU ボード (8C/2.90GHz/Gold 5415+)

N8101-1844 CPU ボード (28C/2GHz/Gold 5420+)

N8101-1841 CPU ボード (20C/2GHz/Silver 4416+)

該当するシステム ROM のバージョンは、v1.32 (03/23/2023) または v1.46 (09/26/2023) です。

Quick Assist Technology 機能を利用するためには、システム ROM を v2.16 (03/01/2024) 以降にアップデートする必要があります。

● Boot Order Policy オプションについての注意事項

「Boot Order Policy」オプション(*)は、「Reset After Failed Boot Attempt」に設定してください。本設定により、Boot Order のリストにあるすべてのブートデバイスでブートに失敗した(ブートデバイスが初期化に時間がかかるなど)場合、システムの再起動を行います。システムの再起動により、ブート処理を再実行することで OS ブートに成功することがあります。

2023 年 8 月より、「Boot Order Policy」オプションの工場出荷時設定は [Retry Boot Order Indefinitely] から [Reset After Failed Boot Attempt] に変更されました。

(*)BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > Boot Order Policy

● 工場出荷時の設定について

2024 年 7 月 8 日出荷装置より、下記項目の出荷時設定を変更しています。

System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options > Processor x2APIC Support : 【Auto】 → 【Force Enabled】

本設定により、高コア数の CPU をご使用時に、オペレーティングシステムをより効率的に実行できるようになります。

2024 年 7 月 8 日より前に本機を購入されたお客様は、上記設定に変更してください。

● 「Memory Initialization - Start」のメッセージで POST 停止した場合の対処について

本体装置の電源投入後、「Memory Initialization - Start」のメッセージで、まれに POST 停止することがあります。

本現象発生時は、以下の手順で復旧してください。

1. 本体前面の電源スイッチ(または、iLO の Web インターフェイスにある Power アイコン)を 4 秒以上長押しして、本体装置の電源をオフにします。
2. 本体前面の電源スイッチ(または、iLO の Web インターフェイスにある Power アイコン)を押して、本体装置の電源をオンにした後、正常に起動する事を確認してください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC Express5800 System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

上記復旧手順を実施しても復旧しない場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。

● PCIe Slot の Link Speed 設定について

下記の PCIe Slot について PCIe Link Speed (*1) を変更しても Link Speed に反映されません。
常に最大 Link Speed で動作します。

PCIe Slot 4/5/6

(*1) PCIe Link Speed 設定メニュー

BIOS/Platform Configuration (RBSU) > PCIe Device Configuration > PCIe Slot X : "Device 名" > PCIe Link Speed : **【Auto】** / PCIe Generation 1.0 / PCIe Generation 2.0 / PCIe Generation 3.0

PCIe Slot X : PCIe Slot 4/5/6

"Device 名" : 実装される PCIe Device によって表示が変わります。

PCIe Link Speed : デフォルト設定は [Auto] です。設定変更は行わないでください。

実装される PCIe Device によって、選択可能な PCIe Generation 1.0/2.0/3.0 は変わります。

将来のシステム ROM で修正される予定です。

● View IML に関する注意事項

次の条件を満たしたシステムにおいて、システムユーティリティの View IML 機能(*1)は使用しないでください。

- ・ システム ROM v2.16 (03/01/2024) 未満

かつ

- ・ RAID コントローラ (N8103-243/245) を搭載 (Firmware Version 5.61)

上記条件を満たした状態で View IML 機能を使用すると、RSoD (Red Screen of Death) が発生します。

そのため、IML ログを表示する場合は、iLO Web インターフェイス(*2)を使用してください。

なお、RSoD が発生した場合には、システムの復旧のために電源を Off/On にする必要があります。

(*1) System Utilities > Embedded Applications > Integrated Management Log (IML)

(*2) iLO Web インターフェイス : [Information] - [Integrated Management Log]

3) iLO 6の機能に関する注意事項

● iLOの再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動からOSの起動完了までの間(POST 実行中も含みます)は、iLOの再起動を行わないでください。

また、システムユーティリティの操作途中も、iLOの再起動を行わないでください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

たとえばシステムユーティリティの設定変更途中にiLOの再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、本体装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報を消失することがあります。

また、POST 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Web インターフェイス : [Information] - [Overview] ページにおけるUUID、UUID(論理)が不正な表示になる場合があります。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞

- ・ iLO Web インターフェイスなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
- ・ UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● iLO 連携グループ ファームウェア アップデート機能が利用できない件について

以下のメッセージが表示され、利用できません。



文言と画像は将来変更の可能性があります。


● iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、[Security] - [Access Settings] - [Update Service] - [Downgrade Policy]の設定を『Permanently disallow downgrades』に変更しないでください。

『Permanently disallow downgrades』に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。また、iLO に対して永続的な変更が行われるため『Permanently disallow downgrades』に設定後は、iLO の各種インタフェースや各種ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。

なお、本設定は Set to factory defaults オプションから iLO を出荷時のデフォルト設定にリセットを行った場合においても、リセットされず『Permanently disallow downgrades』を維持します。

● iLO Web インターフェイスのセキュリティアイコンに関する注意事項

iLO Web インターフェイスの[Information] - [Security Dashboard]および iLO Web インターフェイス画面の右上部に  リスクが表示される場合があります。

RBSU の設定や iLO の設定の内容によって、iLO セキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。

推奨値などの詳細については、iLO 6 ユーザーズガイドを参照してください。

ただし、『Require Host Authentication』設定については、本書内の「インターフェイスの、[ホスト認証が必要]設定における注意事項」に記載がありますので、ご確認ください。

iLOの負荷の状態により[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Web インターフェイス画面の右上部の”iLO セキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。

[Information] - [Security Dashboard]の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● iLO の時刻設定について

iLO の時刻設定は、iLO Web インターフェイスにて SNTP の設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。
iLO の SNTP の設定方法については、iLO 6 ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO Web インターフェイスの、[ホスト認証が必要]設定における注意事項

[Security] - [Access Setting] - [iLO]にある[ホスト認証が必要/Require Host Authentication]を『有効』に設定しないでください。

『有効』に設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・ ESMPRO/ServerManager のアラートビューアに、“Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・ Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・ エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・ RAID 通報サービス
- ・ サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・ iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● ネットワークブリッジ構成時の iLO Web インターフェイスのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ設定で構成してご使用の場合、iLO Web インターフェイスの[Information] - [Network] - [Physical Network Adapters]に表示される内容が OS 上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS 上のネットワークアダプターのプロパティにてご確認ください。

● RESTful API ERRORが発生した場合の対処について

POST 実行中、稀に RESTful API Error が発生し、Integrated Management Log (IML)に記録されることがありますが、iLO リセットを行うことで復旧できます。

● iLO Web インターフェイスの Agentless Management Service (AMS) のステータスについて

iLO Web インターフェイスの[System Information] - [Summary] - [Subsystem and Devices]の Agentless Management Service (AMS) のステータスが不明(または利用不可能)※と表示された場合、iLO リセットを行ってください。続いて 10 分程度待って、以下の Agentless Management Service (AMS) の再起動方法に従って、Agentless Management Service (AMS) を再起動してください。

※ Agentless Management Service (AMS) のステータスが不明(または利用不可能)の状態、一部の情報が取得できず、iLO Web インターフェイスの[System Information] - [Storage]や[Network]の情報が正しく表示されません。

< Agentless Management Service (AMS) の再起動方法 >

Windows の管理ツール → サービス → “Agentless Management Service”を右クリックし、再起動してください。

● 通報に関する注意事項

- 論理ドライブ異常時の論理ドライブ縮退や論理ドライブオフラインの SNMP 通報・エクスプレス通報内の論理ドライブ番号に実際とは異なるドライブ番号 (0) が表示されます。(iLO 6 v1.41 以上で修正済み)

期待値例: Drive:2 Location Slot=1

実際値例: Drive:0 Location Slot=1

iLO Web インターフェイス: [Information]-[Integrated Management Log]において、下記の IML において表示されているドライブ番号を確認してください。

- ・ 論理ドライブ縮退イベント例

Slot=1 Storage - Volume 2 status changed to degraded

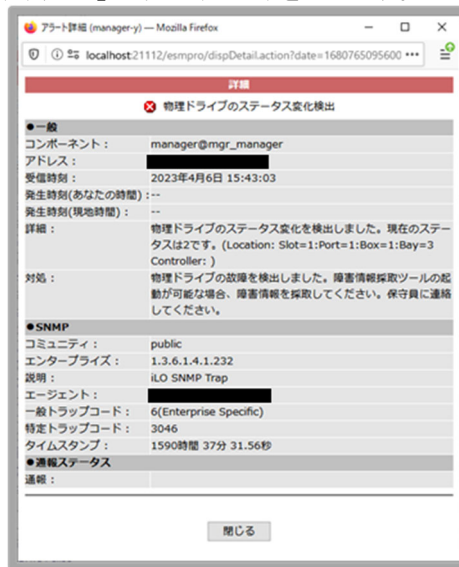
- ・ 論理ドライブオフラインイベント例

Slot=1 Storage - Volume 3 status changed to failed

- 論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障のエクスプレス通報が通知されません。

また、ESMPRO/ServerManager アラートビューアにおいて「物理ドライブのステータス変更検出」が通知されますが、仕様変更に伴い詳細欄のステータス値が「3」ではなく、「2」が表示されます。

※ステータス値の「2」は正常 (OK)、「3」は異常 (Failed) を示します。



4) OSに関する注意事項

● サーバーマネージャ上の赤い警告表示について

本製品の出荷時状態で、OS 起動後にサーバーマネージャを表示すると、サービスに関する警告が赤色で表示されます。警告の内容が、Microsoft Edge Update Service (edge update) サービスに関するものである場合、実害はありませんので、無視いただいて問題ありません。

本警告の詳細については、下記 URL のマイクロソフト社の情報を参照してください。

Windows Server 2022 において、サーバ マネージャ上に edgeupdate サービスに関する警告が表示される

<https://jpwinup.github.io/blog/2021/09/29/UserInterfaceAndApps/SrvMngWithEdge/>

(2023/9/22 現在)

● NIC チーミング使用時の注意事項

本機の標準ネットワークアダプター、および N8104-206/209 を NIC チーミングで使用する場合は、事前に以下の手順で [ARP Offload] と [NS Offload] を無効に設定してください。

1. [デバイスマネージャ] を起動します。
2. [ネットワークアダプター] を展開して NIC チーミングで使用するネットワークアダプターをダブルクリックし、プロパティを表示します。
3. [詳細設定] タブを選択し、[ARP Offload ※] と [NS Offload ※] の値を「Disabled」に設定します。
※ : [アドレス解決プロトコル (ARP) オフロード]、[近隣要請 (NS) オフロード] と表示されている場合があります。
その場合は、[アドレス解決プロトコル (ARP) オフロード]、[近隣要請 (NS) オフロード] を「無効」に設定してください。
4. [OK] をクリックし、システムを再起動します。

5) 全般の機能に関する注意事項

● N8103-184/E184 SAS コントローラご使用時の注意事項

N8103-184/E184 SAS コントローラを使用する場合、iLO Web インターフェイスの[System Information] - [Storage] - [Storage Controller]のStatusが“不明(Unknown)”と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● N8103-244/246 RAID コントローラご使用時の注意事項

- ・ システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) 未満の場合、iLO Web インターフェイスの One-button セキュア消去レポートの位置 (Location) 情報が実際のドライブの搭載スロットと異なることがありますが、One-button セキュア消去の動作は、正常に完了します。
消去結果は「成功」の表示でご確認ください。

システム ROM バージョン 2.32 (09/09/2024) では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

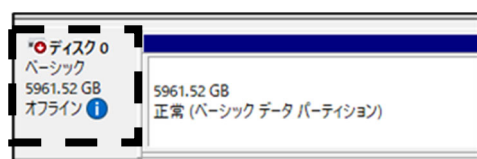
- ・ Windows 環境でファームウェア「03.01.23.072」を用いた N8103-244 と N8103-246 の混在構成、もしくは N8103-246 を 2 枚搭載している構成の場合、起動時に OS がインストールされていないディスク (データディスク) がオフラインになる場合があります。データ消失などは発生しません。



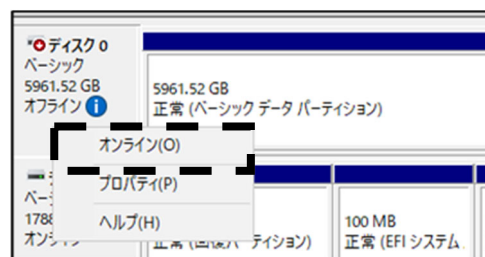
本事象はお使いの OS が Windows の場合でのみ発生します。

本事象が発生した場合は下記の手順を参考に「ディスクの管理」よりディスクをオンラインに変更してください。

[ディスクの管理からオンラインに変更する方法]



- ① オフラインになっているディスクの点線で囲った部分を右クリック



- ② オンラインをクリック

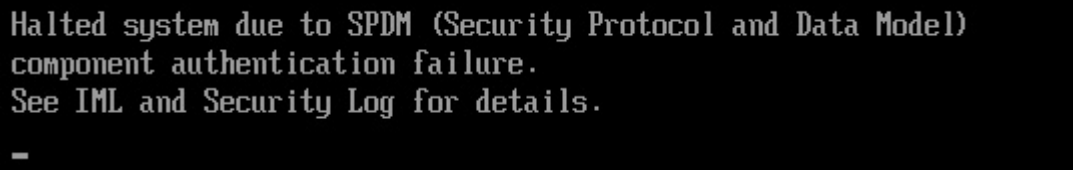
● PCI カードの取り付けに関する注意事項

PCI カードを本装置に取り付ける際は、PCI スロットに差し込んだ後、PCI カード、または PCI スロット付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。

なお、工場出荷時に搭載されている PCI カードはネジで固定しています。

● 「Halted due to Security Protocol Data Model (SPDM) component authentication failure」というメッセージが表示された場合の注意事項

システムの再起動を頻繁に実行した場合、「Halted due to Security Protocol Data Model (SPDM) component authentication failure」というエラーが発生して、OS が起動されないことや、電源投入時セルフテスト (POST) が完了されないことがあります。この画面で停止した場合はシステムを再起動してください。



Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model)
component authentication failure.
See IML and Security Log for details.

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack 内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの最新の情報および注意事項、制限事項については下記の Web サイトをご確認ください。サーバ診断カルテは最新版を使用することを推奨します。

NEC サポートポータル (Windows 対応版)

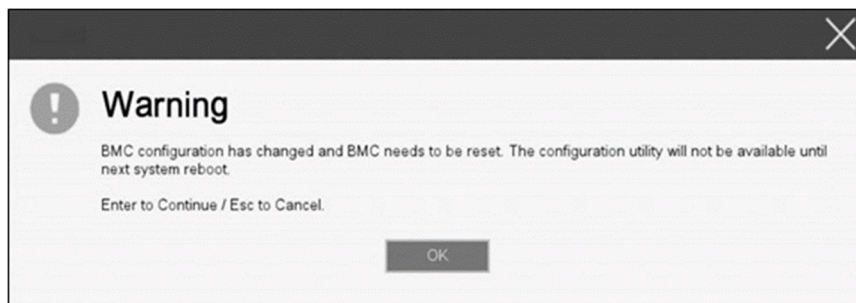
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010106809>

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

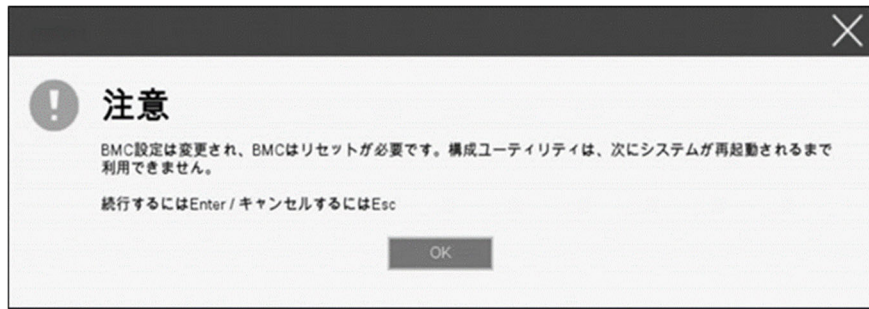
システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の (1) のポップアップが表示された場合は (2) 以降の手順を厳守してください。

注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization Start」のメッセージで POST 停止、あるいは対象サーバーに記録されている Serial Number、Product ID が消失する場合があります。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning (注意) ポップアップが表示されます。

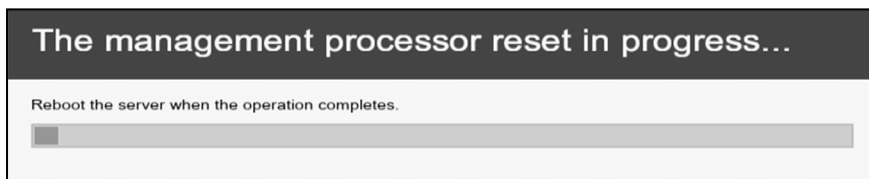


英語表示の場合



日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。
- (3) iLOの再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず3分以上お待ちください。
もし、3分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合



日本語表示の場合

- (4) 3分以上経過後、以下を確認します。
- A. 本体操作時
対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。
- iLO が再起動中 : ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒1回)
- iLO の再起動が完了し正常動作 : ステータスランプが緑色で点灯
- B. リモート (iLO Web インターフェイス) 操作時
対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。
- (5) (4)において、iLO の再起動の完了を確認後、〈ESC〉キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。
- (6) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択し、対象サーバーを再起動します。

■商標について

EXPRESSBUILDER、ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft(R)、Windows(R)、Windows Server(R)、は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel(R)、Xeon(R)は米国 Intel Corporation の登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

2025 年 1 月 第 4 版



* CBZ-057210-201-03 *